

平成26年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成27年3月

明石市（兵庫県）

○計画期間：平成22年11月～平成28年3月（5年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点(平成27年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市の認定基本計画は、平成22年11月の認定以降、「便利で暮らしやすいまち」、「一歩足を伸ばして楽しめるまち」を目標に、官民一体となって活性化を進めているところである。

しかしながら、近年の経済不況や、隣接する大都市における大規模商業施設の開業、中心市街地の南において、長年、「たこフェリー」の愛称で親しまれていた明石淡路フェリーの航路廃止などの影響により、明石の中心市街地がおかれている状況は依然厳しいものとなっている。

そのような中、本基本計画の核事業である「明石駅前南地区再開発事業」については、都市計画決定や組合設立認可、権利変換計画認可を経て、現在、再開発ビルの基礎工事や隣接する駅前広場工事が着手され、周辺商業者や市民の支援もあり、権利者や行政が一体となって順調に事業を進めている状況にある。

また、再開発事業などのハード整備だけではなく、行政としては、ビル内に整備する「図書館」や「子育て支援施設」などといった公共施設の内装や設備、運営内容の詳細について検討を鋭意進めており、より親しまれる便利な施設となるよう計画を進めているところである。

周辺の商業者においても、中心市街地の商店街が協力して連携し、食のまち明石をPRできるような「バル事業」や「春旬祭」などのソフト施策を精力的に行っていることから、中心市街地の商店街区域における歩行者通行量においては、厳しい経済状況、商業環境の中、ほぼ横ばい状態を保っており、さらには、今後のまちのさらなる回遊性向上を目指し、「ほんまち三白館」などといった賑わいの拠点整備についても商業者自らが着手しており、再開発事業完成後には活性化が持続、波及するような組織や雰囲気づくりといった、下支えとなる取組が着実に進められている状況である。

基本計画にある総事業46事業のうち、取組終了および取組中の事業は38事業となり、休止や未実施の事業は8事業となっている。

2. 平成26年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

明石市と協議会では、計画認定後も年に1～2回は協議会を開催し、中心市街地の現状や活性化事業の取組状況について行政や民間が互いに報告、意見交換などを行っている状況である。

また、協議会の下部組織である商業活性化分科会では、商業者自らが行うイベント事業やソフト施策について毎月議論を行い、様々な事業を展開している。

そういった中、現在、商業者自らが進めている事業への評価は高いが、再開発完成後もさらに効果を高めることができるよう、さらなる自主的なソフト施策の取組が重要であるとの意見がある。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
便利で暮らしやすいまち	都市福利施設利用者数 (人/年)	435,691 (H21)	478,000 (H27)	474,825 (H26)	—	③
一歩足を伸ばして楽しめるまち	歩行者・自転車通行量 (人/日)	19,371 (H21)	21,000 (H27)	21,071 (H26)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

活性化事業の核事業である再開発事業がまだ完成しておらず、数値目標はまだ達成できる状況にはない。

そのような中、都市福利施設利用者数については、行政へのニーズの多様化などもあって若干利用者数としては増加している。特に駅前の明石駅市民サービスコーナーの利用者が増加し、市役所本庁舎の利用者が減少し、駅近の子育て支援施設においても利用者数は年々増加していることから、駅前での行政サービスのニーズが高まってきていると考えられる。

歩行者・自転車通行量については、厳しい商業環境の中、ほぼ横ばい状況である。これは、駅中ショッピングセンターであるステーションプラザ明石の改装による閉店と、再開発事業による駅前店舗の閉店によって、来街者の周辺商店街への分散が考えられるが、空き店舗活用促進事業や商店街でのイベントなどのソフト施策の効果により通行量の減少を食い止めていることも一つの要因と考えられる。

再開発事業については、公共施設の内容を「図書館」や「子育て支援施設」などの利用者数が大きく見込める施設に見直したために若干のスケジュールの遅れが生じたものの、完成後はそれらの効果が中心市街地の通行量へ波及することが想定されることから、どちらの目標も十分達成可能と考えられる。

しかしながら、再開発ビルも含めた駅近大型店舗が改修を終えてオープンした際に、駅周辺利用者を商店街区域にも誘導し、回遊性を向上させるような取り組みが今後の課題であり、引き続きその他の事業を促進していくこととする。

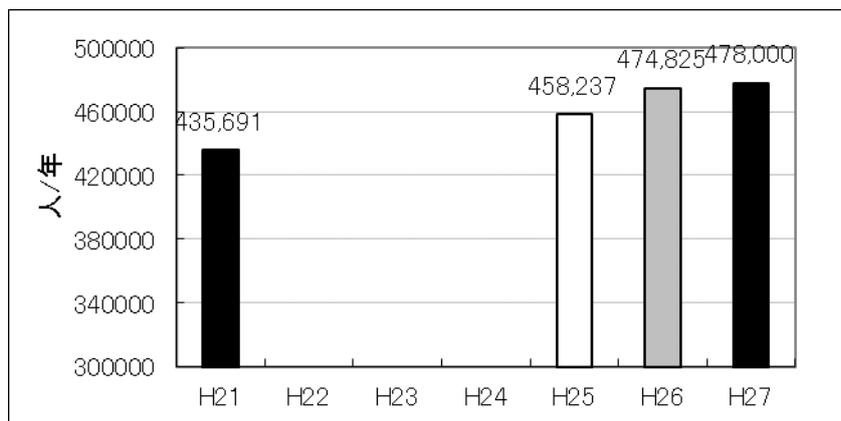
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「都市福利施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P70～P73 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H21	435,691 (基準年値)
H25	458,237
H26	474,825
H27	478,000 (目標値)

※調査方法：年間取扱件数または6月実測定値により年間利用者数を算出

※調査月：平成26年度、平成26年6月

※調査主体：明石市

※調査対象：都市福利施設利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 子育て世代活動支援センター施設整備（明石市）

事業完了時期	平成24年度～平成27年度【実施中】
事業概要	子どもが安心して遊べるようなキッズスペースやプレイルーム、一時保育施設など、子育てを総合的にサポートする施設を駅前再開発ビル内に整備し、子育て期の親の外出を促し、集客力を高める。
事業効果及び進捗状況	平成23年度に見直しを行い、より市民に利用される再開発ビルを目指し、市民の要望が多く、駅前への整備により利用者数の大幅な増加が見込まれる子育て支援施設を拡充することとなった。 すでに床購入や詳細な機能、設備などの設計、運営方法の検討に着手しており、より利便性の高い施設を目指していく。

②. 【追加】図書館整備（明石市）

事業完了時期	平成24年度～平成27年度【実施中】
事業概要	現在、駅から離れた場所にある図書館を駅前の再開発ビル内に移転し、ビル内の他の施設などと連携し様々な世代の集客力を高める。
事業効果及び進捗状況	平成23年度に見直しを行い、より市民に利用される再開発ビルを目指し、市民の要望が多く、駅前への移転により利用者数の大幅な増加が見込まれる図書館をビル内に整備することとなった。 すでに床購入や詳細な機能、設備などの設計、運営方法の検討に着手しており、より利便性の高い施設を目指していく。

③. 地域交流センター施設整備（明石市）

事業完了時期	平成 24 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	中心市街地に来街する人々が拠点として集まることができるよう、イベントや展示などの賑わいスペースを駅前再開発ビル内に設置し、利便性や快適性を高める。
事業効果及び進捗状況	現在、床購入や詳細な機能、設備などの設計、運営方法の検討に着手しており、より利便性の高い施設を目指していく。

④. 駅前市役所窓口機能整備（明石市）

事業完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	市民の利用頻度が高い市役所窓口機能を交通利便性の高い駅前再開発ビル内に設置することで、利便性や快適性を高める。
事業効果及び進捗状況	現在、床購入や詳細な機能、設備などの設計、運営方法の検討に着手しており、より利便性の高い施設を目指していく。

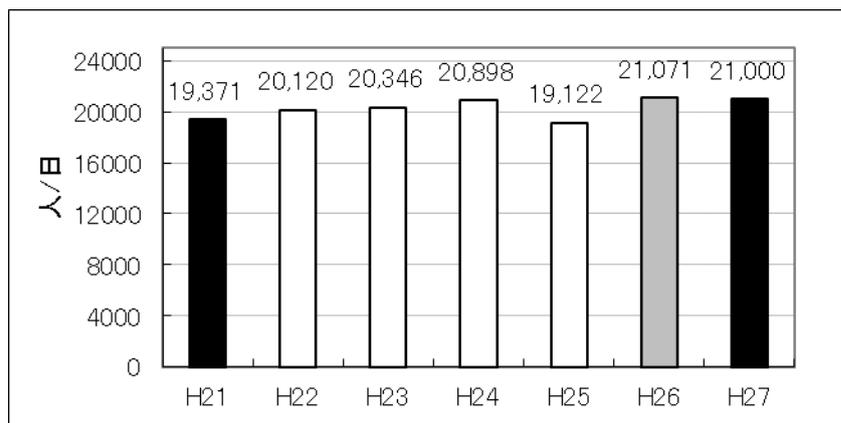
●目標達成の見通し及び今後の対策

核事業である再開発事業において若干の遅れはあるものの、当初の計画から、市民の要望を踏まえた図書館や子育て支援施設など、目標数値を達成できるような事業内容へ見直しを行い、事業は順調に進み、その他の事業についても官民一体となってあらゆる新しい施策を鋭意進めていることから目標達成は可能であると思われる。

今後は、再開発ビルが完成後、ビル内の公共施設利用者がより増える様、施設の整備や運営内容などについて検討を進め、また、施設を活用したソフト施策やその他周辺施設などとのタイアップなどにより、連携して利用者が増進するような対策を検討していくこととする。

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P75～P82 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H21	19,371 (基準年値)
H22	20,120
H23	20,346
H24	20,898
H25	19,122
H26	21,071
H27	21,000 (目標値)

※調査方法：毎年 10 月第 3 週の日曜および月曜の 10 時～18 時の歩行者・自転車通行量の平均値

※調査月：平成 26 年 10 月

※調査主体：明石市

※調査対象：国道 2 号南側商店街区域内 5 地点

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 明石駅前南地区第一種市街地再開発事業（明石駅前南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 23 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	明石駅前において耐震性と床の有効活用に課題を残す建築物を共同化し、商業や行政サービス施設、高層住宅からなる中心市街地の拠点となる複合施設を整備し、利便性や回遊性の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 25 年 11 月には解体工事が着手され、現在、解体工事を終え、基礎工事を実施しているところである。 しかし、平成 23 年度に、より市民に利用される施設を目指すため、ビル内の公共施設の内容を見直したことにより、若干のスケジュールの遅れが生じているが、完成に向け事業は順調に進んでいるところである。

②. 国道 2 号立体横断歩行者道路整備（明石市）

事業完了時期	平成 23 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	明石駅前南地区再開発ビルから国道 2 号南側の商店街エリアまでの、国道 2 号を横断する立体横断歩行者デッキの整備。
事業効果及び進捗状況	平成 25 年 6 月に事業認可を受け、現在、詳細設計および用地補償を終えたところである。再開発ビルへの来街者を中心市街地全体に回遊させることを目的に、ビル完成と同時期に整備が完了するよう工事の準備を進めているところである。

③. 【追加】図書館整備（明石市）

事業完了時期	平成 24 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	現在、駅から離れた場所にある図書館を駅前の再開発ビル内に移転し、ビル内の他の施設などと連携し様々な世代の集客力を高める。
事業効果及び進捗状況	平成 23 年度に見直しを行い、より市民に利用される再開発ビルを目指し、市民の要望が多く、駅前への移転により利用者数の大幅な増加が見込まれる図書館をビル内に整備することとなった。 すでに床購入や詳細な機能、設備などの設計、運営方法の検討に着手しており、より利便性の高い施設を目指していく。

④. 【追加】ほんまち三白館整備事業（本町商店街振興組合）

事業完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	映画館として利用されている施設を、大衆演劇等に利用する劇場に転用し、新たな魅力を創出し、集客力強化を図る。
事業効果及び進捗状況	現在、映画館の劇場への改装工事を実施中であり、整備完了後は、大衆演劇による来客数の増加だけでなく、その他地域イベントの実施や、周辺の飲食店とのタイアップなど様々な波及効果が期待できる。

⑤. 空き店舗活用促進事業（明石市）

事業完了時期	平成 22 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	新たに空き店舗に出店する際の改装費や家賃の一部を補助することにより空き店舗を減少させ、来街目的の創出や魅力の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	これまで 8 件の店舗が採択され、課題であった商店街区域での空き店舗の一部解消を行うことができた。 これらの店舗の出店により、周辺の空き店舗も埋まり、周辺店舗への刺激を与えるなどの効果も発現された。

⑥. 春旬祭関連事業（明石市・明石中心市街地まちづくり推進会議）

事業完了時期	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	早春のイカナゴ漁の解禁にあわせ、魚の棚を中心に各商店街が連携して、明石らしい様々なイベントを行う。
事業効果及び進捗状況	平成 14 年度の第 1 回以降毎年実施し、例年 2 日間で約 3 万人の入場者で賑わっている中、拡幅された歩道でのフリーマーケットや、灯りを施した景観演出などの社会実験的施策もあわせて行い、新たな取り組みを取り入れ改善しながら実施している。 今後も魚のまち明石への愛着心を育み、市内外へ PR できるよう実施を進めていく。

⑦. 【追加】商店街連携にぎわい促進事業（明石地域振興開発㈱・各商店街）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	飲食店を中心としたバル事業や地元地域資源を活かしたソフト施策を行い、商店街が一体となって活性化事業を行う。
事業効果及び進捗状況	明石まちなかバルについては、平成 23 年に第 1 回が開催されて以来、毎年、6 月と 11 月を目途に年 2 回開催しており、毎年、参加店数やチケットの販売額も年々増えており非常に好評を得ている。 その他、半夏生にちなんで夏にはタコの PR イベントなども実施しており、今後も魚のまち、食のまち明石への愛着心を育み、市内外へ PR できるよう実施を進めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

核事業である再開発事業において若干の遅れはあるものの、目標数値を達成できるような事業内容へ見直しを行い、事業は順調に進み、その他の事業についても官民一体となってあらゆる新しい施策を鋭意進めていることから目標達成は可能であると思われる。

今後は、再開発ビルも含めた駅近大型店舗が改修を終えてオープンした際に、駅周辺利用者を商店街区域にも誘導し、回遊性を向上させるような取り組みが今後の課題であり、ビルと周辺商業エリアが相乗効果をもって活性化できるよう、様々な施策について行政と商業者が一体となって、具体的な事業を検討、実施していく。